令和７年度　学校自己評価システムシート　（私立　春日部共栄高等学校）

目指す学校像	全人的人間の育成という精神を基礎として、知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性を育み、社会の発展に寄与する有能な人材を養成する。

重点目標	１　社会貢献の意識を基礎とした高い志を育む自治活動の展開 ２　生徒からの信頼や期待に高い水準で応え得る授業を中心とした教育活動の実践 ３　生徒の可能性を引き出し、生徒の夢を実現する進路指導の充実 ４　生徒、保護者、卒業生をはじめとする学校関係者への情報提供の推進

達成度		
	A	目標がほぼ達成できた
	B	目標が概ね達成できた
	C	取り組みに変化の兆しがみられた
	D	取り組みが不十分であった

＜学校関係者評価委員会＞

協議委員（学校関係者）　７名

内部委員（教職員）　10名

学　校　自　己　評　価

	年度目標		年度評価			学校関係者評価
						最終実施日令和８年３月２８日
	評価項目	具体策と評価指標	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの評価・要望
1	①「至誠一貫」の精神のもと、規範意識を高めリーダーシップを発揮できる人材育成とその伝統づくり ②年齢に応じた社会貢献やボランティア活動の実践 ③生徒どうしが互いに応援しあい達成感を共有できる環境づくり	a.公共マナーや情報モラルの向上を目指す継続的な指導 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問１・２で①②の回答率90%以上** **設問３・４で①②の回答率80%以上** b.生徒の主体的発信を軸にした自治活動の確立 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問５で①②の回答率80%以上** a.ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに対する意識啓発と年間を通じた働きかけ **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問６で①②の回答率70%以上** b.災害時、緊急時の対応と地域への社会貢献 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問７で①②の回答率80%以上** a.「快音」等を利用した啓蒙活動の充実とお互いを認めあう意識づくり **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問８で①②の回答率80%以上**	a.公共マナーについては97.8%、挨拶･感謝の気持ちは97.2%、交通ﾙｰﾙについては98.6%の生徒が①②と回答し高い数値で目標に達したが、ｽﾏﾎのﾙｰﾙ作りと節度ある使用については70.7%にとどまった。 b.生徒会や委員会から発信される情報については89.9%の生徒が意識して学校生活を送っている。 a.ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱへの参加･協力では①②に回答した生徒は48.3%にとどまっているが教員の意識は73.7%となっており生徒と教員の意識の差がある。 b.防災意識は①②に回答した生徒は92.5%、教員は89.5%と意識は高い。 a.全国大会、関東大会、県大会出場のクラブも多く、相互尊重･応援の意識は①②と回答した生徒は88.3% 教員は94.7%であり目標値を上回った。	A B A	a.「他人への配慮十か条」が定着しつつあり、生徒の規範意識に対する自己肯定は高い。しかし、SNSのﾄﾗﾌﾞﾙといった情報ﾓﾗﾙに関しての意識付けの部分がまだまだ不十分である。「共栄ﾙｰﾙ」の一層の周知、学校外の機関と連携し情報ﾘﾃﾗｼｰ能力の向上に努める。 b.自治活動は生徒主体の活動への転換を目指し、粘り強く指導する。 a.学校発信のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱに関してはﾎﾞﾗﾝﾃｨｱという認識がなく意識のところで低くなっていると思われる。募金活動や夢の森公園の植樹活動など積極的に「快音」で紹介し生徒へ啓発していく。 b.実際の訓練、図上訓練、休み時間中の実施等を行い年々ｽﾑｰｽﾞに進行できている。今後は方面別通学会とも協力し集団下校等更に様々な場面を想定していきたい。 a.快音や Instagram、壮行会などで周知できている。どの部活も文武両道を軸に活動しいる。	・４月から導入される「16 歳以上の自転車運転者に対する交通反則制度」の周知について、また努力義務のヘルメットについて徹底をお願いしたい（→掲示、配布、動画視聴、警察による講演などで対応中、対応予定。） ・防災対策として、南海ﾄﾗﾌ･都市直下型地震･富士山爆発など規模の大きい災害の対策も備えてほしい。 ・素晴らしい取り組みをありがとうございます。 ・私立の授業料無償化を追い風として生徒募集を講じてほしい。 ・少子化の進む中で生き残るために、教育内容の充実や結果を出す（東大合格をだす）ことも大切であるし、「待ったなし」の危機感も感じる。一方で、共栄らしい文武両道を大切にした方向性は間違っていないと考える。強化部によるブランド戦略も必要。 ・スパイラル学習、ＬＴ、グローバル教育など継続的に進めてほしい。 ・教員が団結して教育活動を行っている印象を強く感じた。人権教育、多様性を配慮した教育で困ったことはないか（→不登校の生徒の教育機会の確保が満たされていないことが気がかり） ・BLEND の活用方法について（→保護者への連絡、月間予定表、担任からの定期的なコメント、行事報告など。学校単位、学年単位、クラス単位で活用している） ・「学習計画が立てられない」と回答した生徒たちへの丁寧な指導をお願いしたい。
2	①生徒の自己学習力育成を可能にする授業の実践 ②２期制･週５日･45 分７限授業を踏まえた取り組み ③授業点検と改善の実施	a.生徒個々の家庭学習計画の作成と実践 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問９･10･11･12･15･16･29で①②回答率70%以上** b.個人面談を中心とした生徒個々人に応じた学習･進路生活指導の充実 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問25で①②の回答率80%以上** **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問２で①②の回答率80%以上** a.２期制を踏まえた授業や各種試験の工夫と改善 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問13･17で①②の回答率70%以上** b.長期休業中の取り組みと工夫 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ 設問11･14で①②の回答率70%以上** a.授業ｱﾝｹｰﾄの活用による授業点検と改善 **→授業ｱﾝｹｰﾄ総合満足度の①②の回答率85%以上**	a.普段から学習計画を立てている生徒は平日40.1%、休日40.6%、試験前を含めると平日75.6%、休日79.2%であった。自学自習時間は平日2時間以上が49.3%、休日3時間以上が54.3%であった。 b.個人面談では89.9%の生徒が役立っているという評価であった。保護者の方も90.8%がｵﾝﾗｲﾝを含めたHRや面談を評価していただいている。 a.小ﾃｽﾄ等取り組めている生徒は80.8%、学習･部活･休養がﾊﾞﾗﾝｽ良くとれている生徒は77.5%であった。 b.長期休業中も学習にしっかり取り組めている生徒は75.7%、またChromebookを学習のために有効活用できている1･2年生は86.9%であった。 a.授業に対する総合満足度は94.3%の生徒が①②に回答、教員の授業点検も86.0%と上昇している。	A A A	a.朝学習や LT の時間を生徒自身が有効活用し，そこでの内容を家庭自習に繋げていく流れを作っていく。 b.生徒が自ら立案した計画を実際に家庭で実践するところまで結びつけられているかを面談等で確認し、生徒個々の状況を把握していく。 a.単元ﾃｽﾄ・小ﾃｽﾄの意義を生徒に伝えながら、試験直前のみでなく、日常的な学習を継続できるように促していく。 b.Chromebook のさらなる活用について検討を継続する。長期休暇中も生徒の状況を把握し、学習活動を継続していける仕組みを作っていく。 a.他教科も含めての研究授業参観等を通して、教員全体の授業のレベルアップを図る。	
3	①生徒の可能性を引き出し、生徒個々に応じた進路開拓と大学選択 ②授業の充実と進学講習や模試等の仕掛けによる学力増進	a.学年に応じた説明会や進路フェア、講演会、「Academic Issues」等を利用した啓蒙活動の充実および意識啓発 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問18･19で①②の回答率80%以上** b.オープンキャンパス等を利用した主体的な進路研究の実践 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問19･20で①②の回答率80%以上** c.生徒・保護者対象進路説明会の実施と保護者からの意見集約 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問７で①の回答率70%以上** a.各種講習や試験の整理および充実とその活用 **→学校生活ｱﾝｹｰﾄ　設問21･22･23･24で①②の回答率80%以上**	a.「Academic Issues」や「進学通信」が役立っていると回答した生徒は66.3%で目標値の80%に届かなかった。(昨年度は62.8%) b.本校主催の「進路説明会」や「進路ﾌｪｱ」、卒業生による「ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ」が役に立っていると回答した生徒は77.8%でほぼ横ばいの結果となった。 c.12 月に実施した「２年生の生徒と保護者対象の説明会」は79.6%の方が視聴し、そのうち72.8%の保護者が参考になったと回答した。 a.本校の「長期休業中の講習」や「ｾﾐﾅｰﾊｳｽ」などへの満足度が64.0%(昨年 58.6%← 85.5%)と目標を下回り、「日常の講習」への満足度も59.6%(昨年45.2%← 73.2%)と目標を下回った。	A B	a.「Academic Issues」や「進学通信」の内容を生徒に周知させるために、ｶﾞｲﾀﾞﾝｽの時間の目安を提示した。 b.「2年進路ﾌｪｱ」を夏･校外へ移行し参加大学も増やし、より充実を図った。「１年進路ﾌｪｱ」は夏企画(２校講師)の他に春に出張授業も実施し、１年生の意識改革に繋げたい。 c.保護者対象の説明会は引き続き実施していく。 a.昨年度よりは回復したが目標より下回っている。各講習の目標を明確化して改善を進める。 ※東大選抜ｺｰｽの仕掛けは五月祭・東北大学のｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ・土曜講習等を実施。生徒には好評。	
4	①本校Webサイト等を活用した学校関係者への情報発信	a.ホームページの充実と効果的な運用 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問８で①②の回答率80%以上** b.保護者向け連絡システム(BLEND)の有効活用 **→保護者ｱﾝｹｰﾄ　設問９で①の回答率80%以上**	a.ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを閲覧した保護者の88.1%が見やすい、わかりやすいと評価している。 b.BLENDについて役立っている①と回答した保護者は74.6%、②の回答を含めると99.7%と高い評価であった。	B	a.ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの抜本的な改修がまもなく完了。今後、より活発な情報発信ができるよう検討する。 b.保護者連絡については今年度も好評。校内運用でミスも減少傾向にあり、今後さらに精度を高めていきたい。	